

奈良県立美術館

プレスリリース／2026 年 7 月 17 日

昭和 100 年企画
新収蔵記念／生誕 140 年

富本憲吉と昭和

Commemorating New Acquisitions: The 140th Anniversary of Birth
Works of TOMIMOTO Kenkichi in the Showa Era

令和 8 (2026) 年 9 月 19 日 (土) ～11 月 15 日 (日)

主催：奈良県立美術館 会場：第 6 展示室



画像④

新収蔵品でたどる、近代陶芸の巨匠の歩みと昭和という時代

展覧会の趣旨と みどころ

奈良県立美術館では、新収蔵記念の展示として「富本憲吉と昭和」を開催します。

現在の奈良県生駒郡安堵町で生まれた富本憲吉(1886—1963)は、日本の近代陶芸を語る上で不可欠な作家の一人です。陶芸家としての活動は大正初期に始まり、死去する昭和 38 年(1963)まで数多くの作品を制作しました。昭和 30 年(1955)に色絵磁器で重要無形文化財保持者(いわゆる人間国宝)に認定され、昭和 36 年(1961)には文化勲章を受章しました。

当館では昭和 48 年(1973)の設立当初から富本憲吉作品の収集に積極的に取り組み、その成果を展覧会で紹介してきました。そして昨年度には富本の旧知の友人であった今村荒男(1887—1967)旧蔵の作品 33 件を寄贈いただきました。これらの作品は富本の技法や創作模様のバリエーションなどを示すものですが、富本と今村との交流を通して形成された作品群という点でも貴重なものです。今回の展示ではこの寄贈作品を全て公開し、かつ当館収蔵品・寄託品などを加えた約 40 件の作品を出品します。さらに特別出品となる 2 件の作品を加え、富本と今村という安堵町を故郷とする 2 人の交流を紹介します。

また 2026 年は昭和元年(1926)から起算して満 100 年に当たります。本展では、昭和初期の工芸をめぐる状況、戦時中の高山疎開、戦後の重要無形文化財制度の制定といったトピックにふれつつ昭和時代の富本の作品と活動に注目し、時代的な背景を考察することを試みます。

富本憲吉と 今村荒男

本展の見どころである 33 件の新収蔵品は、富本と同じ安堵町出身の今村荒男(1887—1967)が所蔵していたものです。今村家は庄屋を代々務めた家柄で、明治時代の奈良県再設置運動に尽力した今村勤三の四男として生まれたのが荒男です。荒男自身は医学の道に進み、大阪医科大学(現大阪大学医学部)の教授、奈良県立医学専門学校(現奈良県立医科大学)の初代校長などを歴任しました。富本とは幼なじみの間柄であり、最晩年の富本の診察を担当した逸話もあります。

出品件数

約 40 件

展示構成(予定)

1. 富本の東京時代：大正 15 年(1926)－昭和 21 年(1946)

…安堵村から東京に移住し、昭和の幕開けとともに始まった富本の東京時代。移住当初に制作の中心としていた白磁・染付、そして色絵磁器へ、作域を拡張していく様子を紹介します。

コラム 1：昭和初期の工芸

…工芸の近代化に向けた動きは大正時代から起きており、それが帝展第四部(美術工芸)の設置という形で結実したのが昭和初期でした。富本もこうした時代の流れを牽引した一人です。国画創作協会第 6 回展での個展開催といった昭和初期の富本の活動を紹介します。

コラム 2：戦時下の富本－高山への疎開

…昭和 19 年(1944)に東京美術学校の教授に着任、また同校内の工芸技術講習所の主事の職にあった富本は、昭和 20 年 5 月に飛騨の高山(岐阜県)へ講習所の生徒とともに疎開しました。当時の作品などから戦時下の様子を読み取ります。

2. 富本の京都時代：昭和 21 年（1946）－昭和 38 年（1963）

…終戦後、富本は単身で東京から安堵に帰郷し、さらに京都に転居します。文字模様の使用や鉄描銅彩技法などを試みつつ、金銀彩技法の完成に至る富本の京都時代を紹介します。

コラム 3：重要無形文化財の制度の制定

…昭和 30 年（1950）、富本は「色絵磁器」の分野で重要無形文化財保持者に認定されました。芸能や工芸技術などの無形の「わざ」も文化財として位置づけ、そのうち重要なものを指定し、わざの体得者を保持者として認定するこの制度について紹介します。

結び：富本憲吉と今村荒男の交流

…ともに奈良県の安堵村に生まれ、旧知の間柄だった富本と今村。芸術と医学という異なる道に進みつつも晩年まで絶えることのなかった二人の交流を紹介します。

▼展覧会の基本情報と来館案内

主催	奈良県立美術館 〒630-8213 奈良市登大路町 10-6 TEL:0742-23-3968/FAX:0742-22-7032 美術館公式ホームページ https://www.pref.nara.lg.jp/n044/11842.html X(旧ツイッター): ArtmuseumN Facebook:narakenmuseum Instagram:nara_artmuseum
会場	奈良県立美術館 第 6 展示室
会期	令和 8（2026）年 9 月 19 日（土）～11 月 15 日（日） ※特別展「時代を越えて～日本画のゆくえ」と同時開催
開館時間	9:00～17:00（入館は 16:30 まで）
休館日	9 月 24 日（木）、28 日（月）、10 月 5 日（月）、13 日（火）、19（月）
観覧料	同時開催の特別展「時代を越えて～日本画のゆくえ」の観覧券（一般 1,200 円、大学生 1,000 円）が必要です
交通案内	近鉄奈良駅 1 番出口から徒歩 5 分 JR 奈良駅 東口バス乗り場より奈良交通バス「県庁前」下車

▼会期中の催し

会期中の催し	◆美術講座「富本憲吉と昭和」 日時：11 月 8 日（日） 14:00～15:30（13:30 開場） 講師：飯島礼子（奈良県立美術館 学芸員） 定員：60 名（当日先着順） 会場：レクチャールーム ◆担当学芸員によるギャラリートーク 日時：9 月 19 日（土）、10 月 10 日（土） いずれも 14:00～（約 1 時間） 会場：第 6 展示室 ※各イベントは参加無料。ただしご参加には同時開催の特別展「時代を越えて～日本画のゆくえ」の当日の観覧券が必要です。
内覧会	下記の日程で、関係者・プレス向けの内覧会を開催いたします。 参加ご希望の方は、当日当館までお越しください。 9 月 18 日（金）14:00～16:00 （14:15～開会式 14:30～担当学芸員による展示解説）

取材のご依頼
広報に関するお問い合わせ

奈良県立美術館（展覧会企画担当：飯島礼子）
〒630-8213 奈良市登大路町 10-6
TEL:0742-23-3968 FAX:0742-22-7032
E-mail : narakenbipress@office.pref.nara.lg.jp

主な出品作品と広報用画像リスト

◇展覧会広報用に下記の画像を用意しております。ご希望の画像の番号（1～5）をお知らせください。

◇画像掲載にあたっては下記のキャプションをご掲載ください（作者名「富本憲吉」のみ省略可能です。また作品名にルビ（ふりがな）を付ける・付けないの判断、制作年を西暦・和暦のどちらで表記するかは各メディアに委ねます）。

No.	画像	キャプション	備考
1		富本憲吉 じ き そめつけう ど も ようとうばん 《磁器染付独活模様陶板》 昭和 8 年（1933） 奈良県立美術館 蔵 撮影：木奥恵三	
2		富本憲吉 じ きいろ え ひし も ようかくばこ 《磁器色絵菱模様角箱》 昭和 19 年（1944） 奈良県立美術館 蔵 撮影：木奥恵三	
3		富本憲吉 じ きいろ え びじょやなぎえだず とうばん 《磁器色絵美女 柳 枝図陶板》 昭和 21 年（1946） 奈良県立美術館 蔵 撮影：木奥恵三	
4		富本憲吉 じ きいろ え あか じ きんぎんさい し だ も ようねじりとくり 《磁器色絵赤地金銀彩羊歯模様 捻 徳利》 昭和 28 年（1953） 奈良県立美術館 蔵 撮影：木奥恵三	
5		富本憲吉 じ きいろ え そめつけまが みち も ようかざりざら 《磁器色絵染付曲る道模様 飾 皿》 昭和 30 年（1955） 奈良県立美術館 蔵 撮影：木奥恵三	